様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１３２０１

研究課題名（和文）ASEANにおける域内イスラーム留学ネットワーク形成に関する実証的研究

研究課題名（英文）A Study on Network Formation of Muslim Students' Overseas Study in ASEAN Countries

研究代表者
Ｓ　Ｋａｍｐｅｅｒａｐａｒｂ（Kampeeraparb, Sunate）

名古屋大学・国際開発研究科・講師

研究者番号：９０３６２２１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　タイにおけるマレー系ムスリムは海外留学を活用しながら、高等教育へのアクセスを確保している。従来はアラブ世界、とりわけエジプト留学が圧倒的多数を占めたが、近年マレーシアやインドネシアといったASEAN域内での高等教育交流が積極的に展開されている。また、イスラーム教育に限定せず、ビジネス、理学、工学、医学といった各分野を学ぶ留学形態が増えている。
　期待される留学効果として、アラビア語、マレー語、インドネシア語といった語学能力の獲得が重視されている。そして、①地理的距離の近さ、②イスラーム圏での生活のしやすさ、③留学費用、④（イスラーム教育を学ぶ者にとって）イスラーム教育の質、が重要な要因である。

研究成果の概要（英文）：Muslim students in Thailand who want to pursue their study in the field of Islamic studies in higher education, opportunities are limited. Some Muslim students choose overseas study, especially in Islamic countries. Thai Muslim students consider going to study overseas as an important means to study Islamic education in higher education institution, especially in Egypt.
In recent years, there are more and more students study fields of study other than Islamic studies in other Islamic countries such as Malaysia and Indonesia because of unsecured situation in Arab and Middle East countries, ASEAN integration, development of higher education institutions in Malaysia and Indonesia, and advantages of proficiency in several languages: Arabic, Malay, Indonesian languages. Factors influencing their destination choice range from location, authentic Islamic knowledge and languages, costs and scholarship availability, cultural similarity and living and studying environments.

研究分野：比較・国際教育学

キーワード：海外留学　留学ネットワーク　タイ　イスラーム　ASEAN

１．研究開始当初の背景

タイにおける人口の約５％（約 310 万人）がムスリムであり、マレーシアと国境を接するタイ深南部ではマレー系ムスリムが人口の 70～80%という多数派を占めている。彼らのイスラーム教育に対する需要は高く、後期中等教育段階まではイスラーム教育を受ける機会がある程度整備されているが、タイ国内の高等教育機関においてイスラーム関連科目が開設されているのは、わずか数校であり、高等教育段階でイスラーム教育を受ける場合、イスラーム圏への留学に頼らざるをえない。

こうした状況にもかかわらず、従来のタイの留学施策や留学に関する研究においては、米国、オーストラリア、英国、日本といった先進国への留学ばかりが扱われ、イスラーム圏への留学が十分に検討されてこなかった。タイ人留学生の主要留学先国とされる米国、オーストラリア、英国、日本への留学生総数が合わせて約２万人（ユネスコ推計）であるのに対し、イスラーム圏へのタイ人留学生総数は３千人弱（2007 年タイ外務省統計）に上っており、タイの留学現象を見る上で無視できない規模になっている。同統計によるとイスラーム圏の主要留学先国としては、①エジプト 1,700 名、②マレーシア 300 名、③スーダン 220 名、④パキスタン 200 名、⑤サウジアラビア 170 名となっており、中東アラブ世界、とりわけエジプトへの留学が圧倒的多数を占めてきた。しかしながら、近年のエジプトをめぐる政情不安の影響により、エジプト留学が激減しており、タイ人ムスリムの留学は新たな局面を迎えている。

２．研究の目的

本研究の目的は、タイ人ムスリム留学生を対象に、近隣イスラーム圏であり文化的共通性も高いマレーシア留学の実態について、送り出し国と受入れ国の相互関係を踏まえて実証的に明らかにし、マレー・イスラーム文化圏を軸とした新たな留学ネットワークの構造的解明をはかることにある。本研究が目指す東南アジアの〔マレー・イスラーム文化圏における留学現象の構造的解明〕は、単に研究の未開拓領域を埋めるのみならず、従来の〔途上から先進文化圏へと向かう従属論的留学モデル〕とは異なり、ASEAN 地域統合やグローバル化の進展により文化・人的交流の機会が飛躍的に増大する中、域内において留学現象がいかなる自律性のもとに発展しうるのかについて新たな理論的視座を提供しうる点で革新的であるといえる。

３．研究の方法

本研究では、タイ人ムスリム学生を対象に、マレーシア留学の実態とその背後にあるマレー・イスラーム文化圏内部における留学ネットワークの構造を明らかにするべく、具体的に以下の４点について実証的に分析・検証することとする。研究プロセスの概要は次に示す通りである。

（１）タイのイスラーム教育の現況とマレーシアへのムスリム留学生の送り出しの実態解明

（２）マレーシアにおける留学生受入れ政策・支援体制と受入れ状況の実態解明

（３）タイープッシュ要因とマレーシアープル要因分析を通した相互関係の把握

（４）〔マレー・イスラーム文化圏における留学ネットワーク〕の構造解明

研究方法として、資料の収集のほか、現地実態調査を行った。タイ、マレーシア、そして、調査の過程で対象とすべく判明したインドネシアにおいて数回現地調査を行った。

４．研究成果

タイにおけるマレー系ムスリムはタイ深南部に集中している。現状では、後期中等教育段階まである程度イスラーム教育が保障されている。高等教育段階への進学にあたっては、海外留学を活用しながら、高等教育へのアクセスを確保している。従来はアラブ世界、とりわけエジプト留学が圧倒的多数を占めたが、近年の政情不安により同地域への留学が減少している。代わって、マレーシアやインドネシアといった ASEAN 域内での高等教育交流が積極的に展開され、ムスリム生徒の高等教育への接続は新たな局面を迎えている。

（１）タイ深南部におけるムスリムの教育制度と私立イスラーム学校の状況

マレー系ムスリムの過半数は 2015 年現在、中等教育段階において、私立イスラーム学校に進学している。

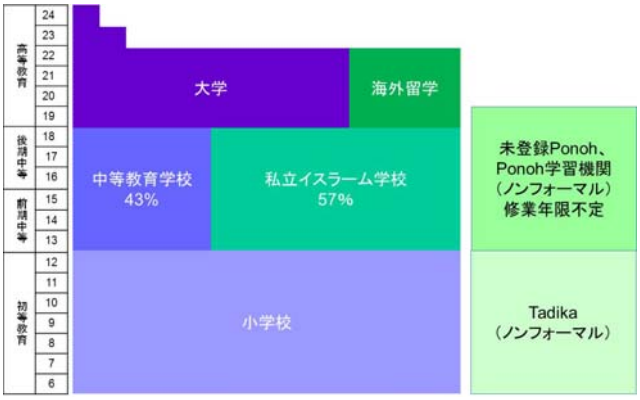

図１　タイ深南部におけるムスリムの教育制度

私立イスラーム学校数と生徒数は次の表１に表している。

	私立イスラーム学校（宗教＋普通教育）		私立イスラーム学校（宗教教育のみ）	
	学校数	生徒数	学校数	生徒数
パッタニー県	65	57,726	29	2,190
ヤラー県	41	37,891	1	109
ナラティワート県	51	62,285	49	33,450
サトゥーン県	16	7,237	2	10
ソンクラー県	26	15,118	1	118
計	199	180,277	82	35,970

表１　私立イスラーム学校基本統計（2015 年）

（２）タイ深南部におけるムスリムの進学

タイ国内においてイスラーム教育を継続して高等教育段階において勉強することが可能である。タイ深南部には高等教育機関が９ヶ所ある。

①イスラーム教育関連学部を開講

a. College of Islamic Studies, Prince of Songkla University, Pattani Campus（国立）

b. Faculty of Education, Yala Rajabhat University（国立）

c. Academy of Islamic and Arabic Studies, Princess of Naradhiwas University（国立）

d. Thaksin University, Songkhla Campus：マレー語科のみ（国立）

e. Fatoni University（私立）

②イスラーム教育未開講

f. Songkhla Rajabhat University（国立）

g. Prince of Songkla University, Hat Yai Campus（国立）

h. Rajamangala University of Technology Srivijaya（国立）

i. Hatyai University（私立）

（３）留学生を送り出している私立イスラーム学校の状況

留学生を送り出している私立イスラーム学校の多くは、大規模校である。普通教育の質にも力を注いでおり、全国統一学力試験 O-NET（Ordinary National Educational Test）の成績や、タイ国内の進学実績を重視している。語学教育についても特色を打ち出している学校が多く、アラビア語や英語のインテンシブ課程を開設している学校もある。エジプト、マレーシア、インドネシア等といったイスラーム圏の関連組織と交流協定を結んでおり、短期交換留学や奨学金による留学生派遣を行っている。

（４）タイ人留学生の海外留学状況

2014 年現在、UNESCO 統計によるとタイ人留学生の留学先国として、第１位　アメリカ、第２位　イギリス、第３位　オーストラリアなどが挙げられる。

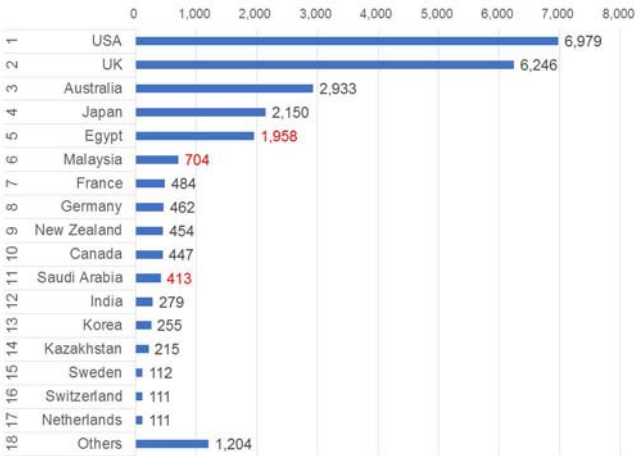

図２　留学先国別タイ人留学生数（2014 年）

マレー系ムスリムに限って見ると、エジプトやマレーシア、インドネシアといった留学先国が上位を占めている。

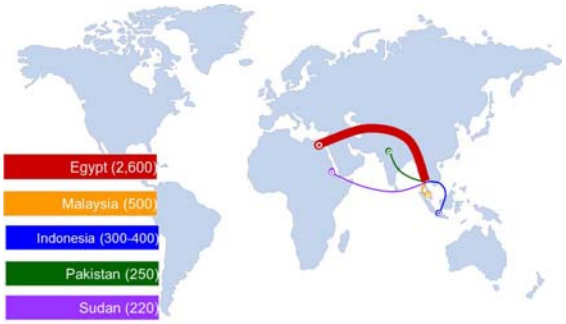

図３　マレー系ムスリムの海外留学先国別（2006 年）

（５）ムスリム生徒の海外留学状況とその特色

①マレーシア留学の状況

タイ人留学生に見るマレーシア留学の特徴。

a. 首都クアラルンプール近郊とタイに接する北部マレーシアへの留学生が多い。

b. タイ深南部出身者が大多数を占めている。

c. 私費留学の割合が高い。

d. マレーシアへの留学効果に高い価値を置いている。

マレーシアへの留学動機として、従来通り、高等教育レベルのイスラーム教育を希望して、マレーシアの各大学におけるイスラーム関連学部へ留学することが多い。しかし、近年、イスラーム圏における高等教育（ビジネス関連学部等）も人気を集めている。地理的に近く留学費用も比較的安い、マレー系ムスリムにとっては言語や文化面で適応しやすい、イスラーム圏のため生活しやすい（礼拝、ハラール等）、高等教育が発展している。また、言語能力の向上も期待できる。マレーシア留学による、英語、マレー語、アラビア語の向上が見込まれる。

②インドネシア留学の状況

イスラーム組織ムハマディヤ（Muhammadiyah）による留学生の積極的誘致がインドネシアへのタイ人留学生数を増加させたと見られる。

1912 年にジョクジャカルタ（ヨグヤカルタ）で発足したムハマディヤは、教育を１つの柱としており、インドネシア最大の私立学校ネットワークを形成している。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学まで含めた場合、その学校数は、1 万以上にのぼる。

タイ人留学生の受け入れ開始は、Din Syamsuddin ムハマディヤ会長の 2008 年パッタニー訪問を契機に、タイ深南部地域行政機関との協力によるムスリム生徒に他対する高等教育機会の提供を約束した。2009 年からタイ・ムスリム生徒の受け入れを開始した。2009 年 16 名、2010 年 26 名、2011 年 40 名、2012 年 44 名受け入れた。

タイ人留学生に見るインドネシア留学の特徴。

a. 深南部生徒を対象としたムハマディヤ奨学金プログラムを継続実施。

b. 生活費は自費でまかなっているが、インドネシアは、マレーシアよりも生活費が安く、負担は少ない。

c. イスラーム教育よりも、普通教育に対する関心が高い。

インドネシアへの留学動機として、

a. ムハマディヤ奨学金プログラムは、貧困層のムスリム生徒にとって、貴重な海外留学機会を提供している。

b. 帰国せずに、インドネシアで就職する事例も少なくない。

c. インドネシア語能力の向上。教授用語はすべてインドネシア語。インドネシアは急速な経済発展を遂げており、インドネシア語のできる人材は、タイにとって価値が高まっている。

（６）まとめ

ムスリム生徒にとって、宗教教育とともに普通教育も重要なものとなった。タイ国内の高等教育機関への進学が増えたのは、こうした普通教育熱の高まりを反映している。従来より、ムスリム生徒にとって、海外留学はイスラーム高等教育を受ける重要な手段であった（とりわけエジプト留学）。近年では、イスラーム教育に限定せず、マレーシアやインドネシアといったイスラーム圏の高等教育機関で、ビジネス、理学、工学、医学といった各分野を学ぶ留学形態が増えている。

こうした背景には、①アラブ・中東世界の政情不安、②ASEAN 域内の経済統合、③マレーシアやインドネシアにおける高等教育の発展などがある。また、期待される留学効果として、アラビア語、マレー語、インドネシア語といった語学能力の獲得が重視されている。留学形態は多様化しているが、①地理的距離の近さ、②イスラーム圏での生活のしやすさ、③留学費用、④（イスラーム教育を学ぶ者にとって）イスラーム教育の質、が重要なファクターである。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計　３件）

Sunate KAMPEERAPARB, Thai Muslim Students' Overseas Study: Factors Influencing Their Choice of Destination, The 11th Biennial Comparative Education Society of Asia Conference, Siem Reap, Cambodia, 2018

カンピラパーブ　スネート・鈴木康郎、タイのムスリム生徒に見る高等教育への接続に関する調査研究、日本比較教育学会第 53 回大会，東京大学、2017

カンピラパーブ　スネート・鈴木康郎、マレーシアにおけるタイ人留学生の留学動機に関する調査研究、日本比較教育学会第 52 回大会，大阪大学、2016

６．研究組織

(1)研究代表者

Ｓ　カンピラパーブ（S, KAMPEERAPARB）

名古屋大学・大学院国際開発研究科・講師

研究者番号：９０３６２２１９

(2)連携研究者

鈴木　康郎（SUZUKI, Koro）

高知県立大学・地域教育研究センター・准教授

研究者番号：１０３４４８４７

(3)研究協力者

塩崎(久志本)裕子(SHIOZAKI, (Kushimoto) Hiroko)

International Islamic University Malaysia（マレーシア国際イスラーム大学）・Faculty of Languages and Management・准教授